



令和7年度 東京都北区立王子桜中学校

令和8年2月 第11号

校長 阿久津 光生

〒114-0002

東京都北区王子2-7-1

Tel 03-5902-3155

王子桜だより

共生の精神に満ち、国際的視野に立ち、大きな夢の実現のために限りなく向上に努める人を育てる。

教育目標 **自主 創造 飛翔**

《祝 卓球女子都大会出場 頑張りました!》

12月26日(金)卓球都大会が江戸川区スポーツセンターで開催されました。

王子桜中女子卓球部は、個人戦に2年生の金城さん、梅山さん、1年生の鈴木さんの3名が出場して大健闘しました。都大会出場本当におめでとうございます!



《祝 男子バスケットボール部 攻玉社杯 見事優勝おめでとうございます!》

男子バスケットボール部は、12月26日(金)に品川区の攻玉社中学・高等学校主催の大会(攻玉社杯)で見事優勝を果たしました。おめでとうございます。攻玉社中学校、練馬区立南が丘中学校、戸田市立美笹中学校と予選リーグを行い、優勝決定戦は杉並区立杉森中学校と対戦しました。決勝戦は、延長の末、なんと逆転優勝を果たしました。本当におめでとうございます。そして優秀選手賞には2年生の石井さんが選ばれました。おめでとうございます。



《祝 卓球部男子団体 都大会出場おめでとうございます!》

1月18日(日)卓球新人戦の都大会団体戦が江戸川区スポーツセンターで開催されました。王子桜中男子卓球部は、団体戦に2年生の範さん、関さん、大吉さん、森さん、中島さん、1年の丸山さん、田中さんが出場し、大いに健闘しました!都大会出場本当におめでとうございます!



《祝 東京都中学校ラグビー新人大会 大勝利おめでとうございます！》

1月18日(日)東京都中学校ラグビー新人大会が成城学園第二グラウンド(世田谷区)で行われました。王子桜中は、獨協中、都立小石川中との合同チームで成城学園中学校と対戦し、見事に大勝利をおさめました！トライやコンバージョンキック、スクラムなどラグビー部のみなさんのカッコ良い姿見られてとても良かったです。試合シーズンが続きますが、これからも頑張ってください。本当にお疲れ様でした。



《祝 2年生坂口さん 北区中学校書き初め席書会に 王子桜中代表に選ばれ出場おめでとうございます！》

1月20日(火)北区立明桜中学校体育館において北区中学校書き初め席書会が行われました。2年生の坂口さんが、王子桜中代表に選ばれ出場し、**国語・書写研究部長賞を受賞**しました。おめでとうございます。学校でも後ほど表彰をさせていただきます。



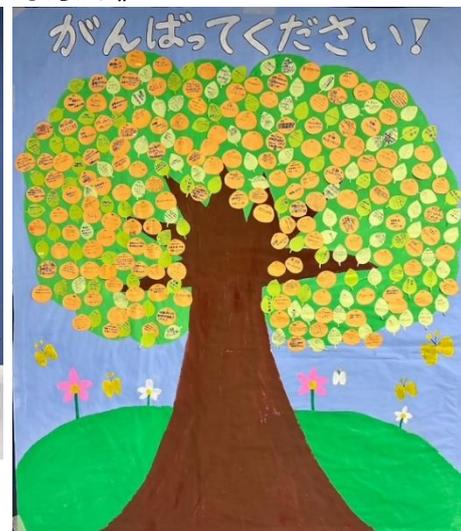
《小中連携 第4回図書館フェスティバルが開催されました》

1月17日(土)学校図書館(メディアセンター内)で小中連携 第4回図書館フェスティバルが開催されました。王子小学校と王子桜中学校が連携して開催する図書館フェスティバルでは、特別に小中学校の図書館内にある階段を行き来することができ、子どもも大人もより本に親しみを持ち、読書がもっと楽しくなるフェスティバルになることを目的として行われました。展示・先生の「私の一冊」・図書委員会活動の紹介・貸出人気図書・各種コンクール入賞作品・各種展示物(POP コンテストや表彰など)本のリサイクルコーナー・ワークショップ・しおり作り・本の修繕・こどもの読書活動優秀実践校 文部科学大臣表彰受表彰展示などさまざまに工夫された魅力的なコーナーがたくさん作られ大盛況でした。J:COM、赤羽マガジンの取材もありました。最後に、このフェスティバルの開催にあたりましてスクールコーディネーター、図書館ボランティアの皆さんをはじめご協力いただきました多くの皆さま方に改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



《3年生への受験応援メッセージが2階3年生フロアに飾られています！》

1,2年生 素敵なメッセージありがとうございます！1月19日（月）生徒朝礼で、生徒会役員のみなさんから、3年生への受験応援メッセージのお披露目がありました。これは、緊張と不安の中、受験を迎える3年生へ向けて、在校生から励ましと応援のメッセージを送り、安心して受験に臨んでもらおうと企画された3年生へのサプライズです！



「伊予柑（いい予感）の木」のメッセージカードはみかんと葉の二種類。みかんは2年生、葉は1年生が記入しました！お披露目の後、2階3年生のフロアの壁に掲示しました。1,2年生一人一人からの心のもった応援メッセージが掲示されていて、3年生も後輩がこんなに優しい気持ちで、エールを送ってくれていることに、喜びと勇気をたくさんもらえたことでしょう！3年生受験頑張ってください！今から「良い予感」がします！作成にあたり、生徒会役員が各クラスに説明に行き、こんな素敵な企画をしてくれて本当に素晴らしいです！本当にありがとうございました。

《1年生 鎌倉校外学習に行ってきました！》

1月23日（金）1年生のみなさんは鎌倉校外学習に行ってきました！北とびあ前で班ごとに集合し、先生方から諸連絡を受けて、時間通りチェックを済ませ、王子駅から出発しました。品川駅で横須賀線に乗り換え、北鎌倉駅、鎌倉駅に向かいました！駅ホーム上でチェックを受けた後、いよいよ班ごとに見学をしました。主な見学場所は、鶴岡八幡宮・長谷寺・高德院・佐助稲荷神社・銭洗弁財天・円覚寺・東慶寺・浄智寺・寿福寺・明月院・建長寺・鎌倉宮・頼朝の墓・英勝寺・円応寺・宝戒寺・光則寺・本覚寺・極楽寺・成就院・浄光寺・鎌倉歴史文化交流館・鶴岡ミュージアム・源氏山公園・荏柄天神社・甘縄神明神社・諏訪神社・小町通りなどです。昼食は小町通りにある「峰本 小町通り店」で班ごとにいただきました。温かい美味しい食事、冷えた体も温まりました！

各班で見学する場所についてしっかり事前学習をして、今回の鎌倉校外学習に臨んだので、とても熱心に見学し、学習を深めようと頑張りました。また、班行動もマナーやルールをしっかり守れて、とても立派でした。1年生の皆さんがとても寒い中、時間にもほとんど遅れずに北とびあに到着してくれたおかげで、当日起こったJRの事故による運転見合わせ等には、誰も巻き込まれずにすみました。本当によく頑張りました。引率された先生方、本当にお疲れ様でした。



《おやじの会のみなさまによる「救命救急講習会」が行われました！》

1月24日（土）午前10時より、おやじの会のみなさま主催による「救命救急講習会」が、1階ランチルームで行われました！王子消防署のみなさまに講師としてお越しいただき、心肺蘇生法、AEDの適切な使い方等を講習していただきました。生徒、教職員ばかりでなく、おやじの会のみなさま、PTA役員のみなさまがこのような講習会を率先して受講して、子どもたちの命を救う緊急対応に備えていただけることに、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



《祝 吹奏楽部アンサンブルコンテスト 見事ゴールド金賞！おめでとうございます!!》 《夏の東京都中学生吹奏楽コンクールに引き続き、二冠達成・王子桜中史上初の栄冠!!》

1月25日（日）吹奏楽部の8名のみなさんは、府中市にある府中の森芸術劇場で開催された第59回東京都中学生アンサンブルコンテストで、見事金賞を獲得しました！本当におめでとうございます！王子桜中吹奏楽部は、2年生の長倉さん、ザイダンさん、金丸さん、田中さん、桑谷さん、須子さん、サノベさん、原さんの8名で、江原大介作曲の「白の焰（しろのほむら）」を演奏しました。1月11日（日）武蔵野音楽大学で開催された新人大会もとても素晴らしい演奏でしたが、さらに2週間猛練習を積み重ねて、より完璧な演奏となりました。軽快なリズムと揺らぎを感じさせる幻想的な旋律で、強弱の表現も素晴らしく、テンポが変わってきたところで、ものすごい迫力ある演奏に感動しました。アンサンブルコンテストに関しては、王子桜中史上初のゴールド金賞を受賞しました。夏の東京都中学生吹奏楽コンクールに引き続き、吹奏楽連盟が主催する公式の大会で二冠を達成したことは王子桜中初の栄冠であり、今年度、北区でも唯一の成績となりました。

帰りの電車内でゴールド金賞をネット発表で知り、歓喜と涙で思わず、途中下車し、みんなで喜びを分かち合いました。これも佐々木先生の指導力は勿論のこと、子供たちに何とかゴールド金賞をとらせてあげたいという情熱と優しさに、生徒の皆さんもそれに応えて最高の演奏してくれたのだと、改めて感動しました！佐々木先生をはじめ練習に関わっていただいた先生方に心より感謝申し上げます。



偉大な科学者 高峰譲吉 その1

高峰譲吉は、嘉永7（1854年）に越中国高岡（現・富山県高岡市）の御馬出町（おんまだしまち）で、加賀藩御典医、高峰精一の長男として生まれました。母の津田幸子（ゆき）の実家は同じく高岡で鶴来屋（酒造業）を営んでいました。現在、生誕の地は高岡市の所有で「高峰公園」として整備され、顕彰碑と胸像が建っています。翌年、父が加賀藩の学問所「壮猶館」への勤務が命じられ、加賀国金沢城下の梅本町（現・石川県金沢市）へ移住します。譲吉は7歳から加賀藩藩校の明倫堂にて学び1865年（慶応元年）、11歳の時、留学生に選ばれ、長崎で3年間英語などを学びます。譲吉が在籍した長崎の致遠館は、多くの逸材を輩出し、明治の立国を助めました。致遠館の同窓生には、小村寿太郎（外務大臣）、大隈重信（総理大臣、早稲田大学創立）らがいます。その後、1868年（明治元年）、京都の兵学塾、1869年（明治2年）、譲吉15歳の時、大阪医学校、大阪舎密（せいみ）学校、七尾語学所で学びます。1873年、工部大学校（後の東京大学工学部）第1期生として入学、6年間応用化学を学び、首席で卒業した譲吉は、翌年、イギリスに留学します。譲吉がイギリスで学んだ先は、「グラスゴー大学」と「アンダーソン・カレッジ（現ストラス・クライド大学）」です。どちらも産業革命の中心地スコットランドのグラスゴーに位置し、大学では発酵（醸造）の科学原理をはじめ応用科学を中心に勉強するとともに化学工場などで実務の体験もしました。1883年、英国留学から帰国した譲吉は、農商務省の役人となり日本の工業化に努めます。農商務省の複数の局から打診がありましたが、本人の「日本固有の産業や技術を掘り起こし、その分野に最新の化学の知識を応用してみたい」という考えもあり、工務局の技術官僚としてスタートしました。翌1884年末に、アメリカ南部ニューオーリンズで開催された綿業百年を記念する万国産業博覧会に事務官として派遣され、現地に約1年間滞在します。譲吉はこの万博で展示されていたリン鉱石に着目し、自費で購入し日本に持ち帰ります。これが日本最初の人造肥料会社設立につながっていきます。また譲吉は、万博期間中に下宿したヒッチ家の令嬢キャロラインと婚約します。3年後に再訪して結婚式を挙げ、欧米工業視察旅行とハネムーンを兼ねて、8ヶ月間世界各地を周り、日本に帰国しました。万博終了後帰国した譲吉は、1886年、農商務省特許局（現在の特許庁）次長となり、高橋是清局長（初代特許庁長官）とともに特許・商標制度の確立に尽力しました。帰国した譲吉は、さっそく化学



高峰譲吉生誕の地
【協力：高峰譲吉博士研究会】



長崎留学の少年たち。譲吉は右から2人目
【出典：世界伝記全集高峰譲吉 池田宣政 講談社 1961】



工部大学校(現在の東京大学工学部の前身)
【協力：高峰譲吉博士研究会】



工部大学校跡地 港区虎ノ門

肥料の工業化に乗り出し、北区にゆかりのある渋沢栄一に出資を仰ぎました。化学肥料の効能を熱心に語る讓吉に渋沢は賛同しました。明治20(1887)年、讓吉は渋沢栄一と三井財閥の大番頭益田孝に出資を得て日本初の化学肥料会社である東京人造肥料会社を東京深川(現江東区大島1丁



東京人造肥料会社跡 釜屋堀公園の「尊農碑」 東京都立科学技術高等学校と佐藤校長先生

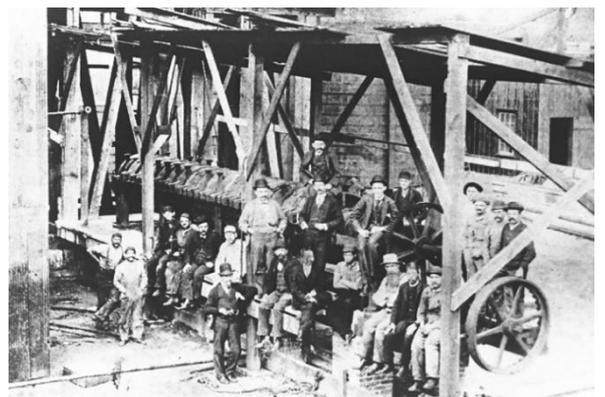
日本初の化学肥料会社の地に「スーパーサイエンスハイスクール」「23区初の創造理数科」のある科学技術高校は、まさに『未来を切り拓く、若き開拓者が集う学び舎』と言える所以があります。

目)の釜屋堀に設立しました。この場所に、現在では「東京都立科学技術高等学校」が建ち、その隣には「釜屋堀公園」が整備されています。公園内には、「化学肥料創業記念碑」と「尊農碑」が設置されており、この地が化学肥料発祥の地であることを示しています。設立が終わるや

すぐに益田孝と共に、肥料製造諸機械の購入及び調査視察のためヨーロッパへ出発します。途中立ち寄った英国で「(麴による)酒精製造法特許」を出願。帰路、ニューオーリンズに立ち寄り婚約者のキャロラインと再会、挙式を行います。11月、共に日本に帰国。この時、讓吉は33歳でした。讓吉は、農商務省を退官して肥料製造に専念している間にも、日本の伝統的発酵技術の研究を続け、麴菌を利用してアルコールを作るという特許「(麴による)酒精製造法特許」を英国で出願、1887年に設立します。この特許は、これまでのモルトに代わり麴を使用し、麴菌の持つ強い酵素、ジアスターゼを活用して、醸造する方法です。翌1888年、フランス、ベルギーにて、1889年には米国で同特許が成立。この特許が元で、アメリカ最大手のウイスキー会社、ウイスキートラスト社(イリノイ州ピオリア)より現地にて技術指導をして欲しいと依頼されます。この頃、東京の深川で長男、次男が生まれます。讓吉は人造肥料会社がようやく軌道に乗り始めた時に、別の事業のため渡米することに躊躇していましたが、世界に向けて実力を奮って欲しいという渋沢栄一の励ましもあり、決意します。1890年、キャロラインと息子二人を連れた讓吉は、サンフランシスコ経由でシカゴへ旅立ちます。ウイスキートラスト社のシカゴ試験場を経て、本拠地のイリノイ州・ピオリアで醸造実験を重ね、実用化の試験を繰り返しました。新しい醸造方法は画期的なものでしたが、現地のウイスキー生産用モルト製造業者は自分たちの職を失う危機感から猛反発を展開し、1893年春、実用化を目前にして実験棟を不審火で焼失してしまいます。混乱の最中、ウイスキートラスト社は株主が分裂し、解散が決定。新方式の醸造方法開発は完全に中止となってしまいます。失意の中、持病の肝臓疾患が再発し、重体に陥ってしまいました。讓吉の生涯で最もつらい出来事でした。(高峰讓吉博士研究会ホームページ参照)



讓吉とキャロライン新婚当初の写真
【協力：高峰讓吉博士研究会】



高峰麴醸造法によるウイスキー工場
【協力：高峰讓吉博士研究会】

展開し、1893年春、実用化を目前にして実験棟を不審火で焼失してしまいます。混乱の最中、ウイスキートラスト社は株主が分裂し、解散が決定。新方式の醸造方法開発は完全に中止となってしまいます。失意の中、持病の肝臓疾患が再発し、重体に陥ってしまいました。讓吉の生涯で最もつらい出来事でした。(高峰讓吉博士研究会ホームページ参照)